


「グランシップ伝統芸能普及プログラム」
静岡市立清水江尻小学校で狂言ワークショップを開催します
～一流の狂言師による「柿山伏」の授業と実演～

1 要旨

公益財団法人静岡県文化財団・グランシップでは、平成23年度より「伝統芸能普及プログラム」を実施し、市町の文化施設や教育機関と連携して、伝統芸能がもつ魅力や特徴などを多角的に紹介しています。今回は、小学校の国語の教科書に掲載されている狂言「柿山伏」を題材に、一流の能楽師による授業と実演を披露します。実際に触れてみる事で、日本の伝統芸能についてより親しみやすく理解できる貴重な機会です。

2 概要

区分	内容
公演名	グランシップ伝統芸能普及プログラム 狂言「柿山伏」ワークショップ
日時	平成28年11月17日(木) 13:45～15:20
会場	静岡市立清水江尻小学校 教室及び体育館(静岡市清水区江尻町14-63)
参加者	6年生3クラス 79名
講師	 三宅右矩(みやけ すけのり 和泉流狂言方) 1983年東京都生まれ。1987年「靉猿」で初舞台。 父は三宅右近(重要指定無形文化財総合指定)、 祖父は三宅藤十郎(人間国宝)。 *他 三宅近成、金田弘明(予定)
内容	・各クラスで能や狂言の基本的な説明(13:45～14:30) ・体育館にて狂言の特徴的なセリフやしぐさの説明(14:35～15:20) 演目や小道具の説明、狂言に登場する動物の鳴き声体験 狂言「棒しばり」の実演 ※狂言「柿山伏」が6年生の国語の教科書に掲載
本プログラムの目的・特徴	グランシップで継続している伝統芸能公演を単なる興行的公演で終わらせず、地域と連携したプログラムとして構成しています。また、各地で開催されているアウトリーチ事業は決まったものを様々な場所で同じように公演することが多く見られますが、本事業は各地域や機関の実情に合わせ、内容や出演者を個別に選定しています。狂言という芸術だけでなく、“狂言師”という演者・芸術家の人としての魅力にも触れることができます。国語の教科書に掲載されている狂言を、知識だけを教える授業にせず、実際に観ることで、より深く理解し、親しみを持つ機会とします。
主催	公益財団法人静岡県文化財団

【柿山伏】(かきやまぶし)

出羽の羽黒山の山伏が大峰、葛城で修行して帰る途中、お腹がすいたため、道端の柿の木に登って無断で柿を食べているところへ、畑主が見回りにやってきます。それを見つけて腹を立てた畑主は、木のかげに隠れた山伏をからかってやろうと、わざと「あれは鳥だ」「猿だ」と声に出します。正体がばれないように山伏は、そのたびに鳴き声を真似しますが、ついに「あれは鳶(とび)だ、鳶(とび)ならば羽を伸ばして鳴くものだが、鳴かないのなら人であろう」と言われ、とうとう畑主にのせられ鳶(とび)の鳴き真似をしながら木の上から飛びおりてしまいますが……。

3 取材申込・お問い合わせ

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
指定管理者:(公財)静岡県文化財団 事業課 電話 054-203-5714 (担当:法月・渡邊)